

■（６２）伝えるタイミングは難しい！

被災地・岩手県陸前高田市の復興のシンボル「奇跡の一本松」がついに力尽きた。７万本あった松原で、津波からただ一本残った松として、枯れないようにと保護団体などが努力してきた。だが、無理だった。保護団体の「断念」の判断を受け、新聞でも伝えた。

実際は枯れてきていることは１カ月以上前から、関係者はわかっていた。速報を競い合っている報道機関なら、知ったらすぐに出稿したいところだ。でも、被災者や保護に力を尽くしている人たちの気持ちを考えると、「もうだめだ」とはさすがに書きにくい。人の場合でも同じだろう。最も近い人が「諦めました」となるのを待つしかない。一本松の場合、保護団体や市長が保護断念を発表した１３日だった。直後に、一本松の種から発芽した苗が育っていることが企業から発表された。跡取りの存在は被災地の救いになる。

先日、私立小学校の社会科教諭の研修会に参加させてもらった。子どもたちにいつ、震災を教えるかの悩みがいくつも聞かれた。伝える時期を判断する難しさは共通だった（山）